

(別紙4(1))

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0390200103		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームすまいる2号館		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第9地割39番地70		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;l_gvosvoQd=0390200103-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;l_gvosvoQd=0390200103-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年12月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当ホームの近くには、同法人運営の老人保健施設ほほえみの里や、グループホームすまいる、グループホームたろうがあり、支援や協力を得ることで、安心して過ごすことができます。今年度は、ホームの理念を見直し、『いつも笑顔で「話」「輪」「和』を新たな理念にして、入居者様との会話や御家族・地域の人との繋がりを大切にし、心穏やかに生活できるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は、同じ法人が運営する老健施設と2つのグループホームに隣接して立地している。各事業所の職員交流がある中で、チームワークを図りながら一体となってケアの提供を実践している。特に、災害時等における事業所間の協力体制の整備は、利用者、家族の安心にもつながっている。住宅地に立地していることもあり、日常的に散歩することも支援している。その中で、地域の人たちと挨拶を交わしたり、各事業所で開催されるイベント等の時には、お互いに案内し、案内をいただいたら利用者と一緒に出掛け交流する等は、利用者の五感刺激のよい機会にもなっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える所に掲示し、共有を図っている。今年度は、職員全員で理念の見直しを行い、実践につなげるよう努力している。。	「話」「輪」「和」の理念はホールに掲示されている。8月に行った「ホーム内の理念を考える」というテーマの話し合いは、職員間の意識付けにもつながった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供達と一緒に、バーベキューを行ったり、老人クラブの運動会の送迎に協力し、地域との交流は常にある。月1回、読み聞かせのボランティア受け入れ交流の場を設けている。	広報を年4回発行し地域にも回覧している。高校生等の職場体験学習や事業所見学、また、地域住民も参加したバーベキュー会等は、地域の人達が事業所を訪ね利用者との交流が図れる機会づくりにもなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報を発行し、ホームの様子を伝えている。ホームの行事へ参加してもらい、認知症の方と関わる機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。ホームからの状況を報告し、参加者から意見や情報提供を行って頂き、ホームの運営に役立っている。	利用者、家族が参加している会議は、ホールで定期的に行われている。事業所の行事報告、利用者の状況報告のほか、参加メンバーからの要望等意見交換をする場になっている。掲げている理念の共有と見直しについて報告し、参加メンバーからも評価をいただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話やメールで連絡を取り合い、情報の交換や提供を行っている。また、市役所の方でホーム長の携帯番号を把握して、災害時にも連絡が取れるようにしている。	近隣にある同法人「老健施設ほほえみ」内に設置されている支援相談室を介して、市からの情報が入ってくる仕組みになっている。また、解決に向けての相談も、相談室を介しながらスムーズにできる関係性にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行っていない。法人内の勉強会や外部研修の伝達講習で、正しく理解できるよう取り組んでいる。	利用者ひとり一人の日々の変化を観察し、リスク回避に向けて職員間で情報共有しながら予測を図り拘束しないケアを行っている。離床センサーは使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や伝達講習で、正しく理解してケアができるよう取り組んでいる。また、地域で虐待を受けた方をホームで受け入れ、事例をもとに職員で話し合う機会を設けている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、制度を利用していた方や、今後、利用予定の方など関わる機会が多く、関係者・関係機関との話し合いを持ちながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前または改定時に、管理者で説明を行っている。不安や疑問に関しても、面会時や電話で、その都度受け対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は、意見箱の設置、毎月のお便りに記入欄を設けているが、電話連絡・面会時に受ける事が多い。受けた内容は、日々の申し送りや、業務会議・運営推進会議で共有できている。	毎月発行しているお知らせの中で、意見・要望を伺うコーナーを設けているが、書いてくれる家族は少ない。白内障術後の通院、点眼薬への支援等について、電話での要望をいただくこともある。今後、事業所行事等に家族にも参加案内する等を行い、利用者、家族よりお話しを伺う機会づくりにつなげたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務会議やカンファレンスの際に業務に関する意見交換を行っている。また、定期的に個人面談を行ったり、申し送りノートを活用して、気付いた事などを日頃から意見を出し合える場として活かしている。	年数回行う管理者との個人面談は、職員の意見や悩みを聞く機会にもなっているが、意見が出ることは少ない。定例で開催している業務会議は、日々職員から提案されていることを議題にして話し合う場に行っている。家族、職員の意見から、玄関に設置されているセンサーの調整と運用のルール化を行い、現在効果的に活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに、各職員に個人目標を立ててもらい、日々コミュニケーションを取りながら、個人目標が達成できるように、アドバイスや環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の業務会議で、勉強会を行ったり、法人内外の研修を受ける環境作りを行っている。また、資格取得に向けて研修に参加できるように、勤務表作成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの合同行事や研修会に参加する事で、交流できる場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面談して要望を聞きながら、入居に向けての準備を行っている。入居後は、日常の行動や言葉に耳を傾けて観察を行い、職員間で話し合って統一したケアをする事で、安心した生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居後など、要望や不安など聴き、都度対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に、本人・家族の意向を聞き取り、ケアプランに反映して取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を把握して、家事や作業の声かけや一緒に行い、感謝の声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況は、面会時や毎月発送している個別のお便りで報告を行い、急な出来事や体調の変化の際は、電話連絡を行っている。必要に応じて、通院の同行をお願いし、共に支えていく関係作りに努めている。。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほほえみの里の入居者へ会いに行ったり、同級会への参加や家族との外出など、馴染みの関係が途切れないようにしている。	昔からの馴染みの洋服屋、そして担当者につなげることでお気に入りの洋服を注文することができている。また、家族同伴で馴染みの床屋を利用する利用者もいる。馴染みの人に手紙を書く利用者に対して、ポストへの投函に同行する等繋がりを大切にしたい支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大事にし、必要に応じて職員が橋渡しをする事で、支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、家族からの相談や問い合わせがあった場合は対応し、必要に応じて関係機関への情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から希望や意向を聞いたり、これまでの生活歴の聞き取りを行って、日常の中で発した言葉等から、思いをくみ取るよう努め、その人らしさについて、職員全員で、希望や意向の把握に努めている。	日々の生活の中での利用者の行動、表情を観察しながら把握している。把握することが難しい利用者の場合は、ケアを通して利用者の反応(喜ぶ・)から得た成功例を共有する等、一人ひとりの思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式の用紙をご家族に記入してもらい、必要に応じて聞き取りを行って、これまでの経過や生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック・状態観察・本人の行動や発した言葉を必要に応じて記録し、申し送りノート・カンファレンス等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、評価・見直し・状態変化に伴う見直しをその都度、行うようにしている。ご家族にも説明し、意見を伺って介護計画を作成している。	定例のカンファレンス前に、受け持ち担当者が一か月の評価を行い、それを基に職員間で評価し、本人・家族又担当医(食事の形態等についても)等の意見を組み入れながらプランを作成している。パソコン記録に向けて整備を進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入の他に、申し送りノートへの記入やカンファレンスで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況の変化により、カンファレンスの他に、必要に応じてミニカンファレンスを開いて、柔軟に対応するように努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高校生の職場体験学習の受け入れや、地域のボランティアサークルの歌や本の読み聞かせ等、交流の場を設けている。また、職員と一緒に買い物や散歩に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を頂きながら、かかりつけ医の受診を継続している。病状の変化がある時は、御家族様と相談して、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診時は、家族の同伴を基本としているが、家族のいろいろな事情から職員が対応する事が多くなっている。医療者との情報共有手段は、口頭であったり、職員からの情報提供書等である。結果についての家族への報告は、電話ですることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の来設、体調不良時は、24時間連絡できる体制が整っており、相談・指示を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・担当看護師・医療連携室と情報交換を行い、ご家族を含め、安心して治療できるように連絡を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、意向を伺っている。ホームでできる事や状況に応じて、他のホームや老人保健施設への住み替え等を説明している。ホーム内で、看取りについて勉強会も行っている。	「個々の想いを知る」をテーマにしたホーム内での研修会を9月に行った。終末期を迎えた時の想いについて、職員間で意見交換ができた。現状での課題がある中で、今後の終末期支援についてのあり方等について共通認識を図る場にもなった。3年前作成した看取り指針は見直し中である	看取り指針の見直しの機会を通して、一つ一つの実践を積み上げ、さらなる質のアップに向けた取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師による勉強会や、AED講習会を定期的に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。また、地域の方や近隣施設の参加もあり、協力体制が築かれている。5年前の震災と今回の台風被害を受け、業務会議で話し合い、ホームに必要な備品を揃えている。	春に職員、地域住民参加の火災訓練を実施した。今年度中に2回目の訓練を予定している。災害発生時は、緊急連絡網を活用し、セコムから地域の担当者に連絡がいく仕組みになっている。地域の人には、外に避難した利用者を安全な場所に誘導することをお願いしている。非常時備品として、水、ライト、ラップ等確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の認知症状を理解し、その人に合わせた言葉のかけ方、声のトーンを工夫しながら対応している。	職員の利用者へのことば使いや態度等について、職員間でお互い気づいた場面をキャッチしたら伝え合うことにしている。排泄ケアの場面では、あからさまにしないで目立たないようにさりげなく対応できる環境づくりも行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、意思表示できる声かけや選択肢を提示して、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の体調や希望で、過ごしやすいペースになるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重した上で、季節やその日の天候にあった服装ができるよう支援している。散髪は、本人・家族の希望にそって対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備したり、味付けの好みを聞いて調理している。誕生会などは、本人の好みのメニューを提供し、食べやすいように、形態の工夫を行っている。	食材の刻み、盛り付け、食器洗い等の場面で、職員と一緒にいき、利用者一人ひとりの力を生かす支援を行っている。誕生食のメニューについて、「何でもいいよ」と答える利用者もいるが、過去に提供したメニューの中から評判の良かったものを提供する等、少しでも利用者に喜んでもらえるメニューを提供するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士から指導と、食事・水分量・食事形態は、医師の指示を受け、入居者様の状態に合わせて提供している。また、摂取量の記録をとり、状態を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、その人に合わせて、声かけや介助を行い、清潔保持に努めている。口腔ケア用品も、個々の口腔状態に合わせて使い分けている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて、個々の排泄パターンを把握し必要に応じて、声がけ・誘導・介助を行っている。	排泄チェック表、温度表等の記録により、利用者個々の排泄パターンを把握し、自立への支援を行っている。紙おむつから布パンツ、パットに改善した利用者もいる。見守り支援の下、自力でトイレに行くことのできる利用者は3名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を把握し、散歩や軽体操を取り入れ、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに、午後から入浴を行っている。希望によっては、毎日入浴している方もいる。本人の希望時間で、気分良く入浴できるように支援している。	隔日の入浴支援を行っている。毎日入浴する利用者もあり、希望に応じた支援を行っている。入浴拒否する利用者はいない。気持ち良く入浴できるような声がけとタイミングを図る等、工夫を取り入れながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望・体調に応じて、休める場所の提供と休息・就寝の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は、いつでも確認できるように、介護記録と一緒に保管している。変更時は、申し送りノートや通院録に記載し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが自分の力を発揮できるよう、役割分担をして感謝の声がけを行っている。散歩や買い物などの外出する機会を設けたり、誕生会に誕生者の食べたい物を聞いて、提供するように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援で外出したり、近隣のホームでの行事に参加したり、近くの農園で行われている栗拾いに出掛けたりしている。	天気の良い日は、近くの公園に出かけて花見したり、県立病院の近くの山に出かけての栗拾い等では、沢山の収穫があり近所の人に差し上げることもできた。同法人事業所間での園児のお遊戯会、クリスマスコンサート等、いろいろな行事を通して出かける機会を多く作っている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、個人の所持金に関して管理していないが、本人や家族の希望で所持している方は、買い物に出掛け楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけたり、受けたりの支援は行っている。また、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、季節を感じられるような装飾を入居者様と一緒にしている。また、共有スペースは、食事席の他に長椅子やソファ、畳間などあり、自由に使えるようになっている。	日常の多くを過ごすホールは、梁を生かした高い天井、小上がりの畳の間、カウンター越しの厨房等は、職員が見守りができる環境下で、利用者はくつろぎながら過ごされている。壁面に貼られている、月毎の行事時に撮影した笑顔いっぱいの利用者の写真は、やすらぎや潤いをもたらす効果を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ誘い合ったり、廊下の長椅子や、畳間で洗濯物をたたみながら会話したり、自分の部屋で本を読んだり、入居者様が自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から、馴染みの物を持ち込んだり、写真やアルバムの設置、雑誌や本を置いたりして、居心地良く過ごせるように工夫している。	ベッド、クローゼット、洗面所(車いす対応もあり)が設置されており、利用者の状況、要望等を取り入れた配置になっている。持ち込みについては、特に制限はしていない。写真、人形など馴染みの物の持ち込みもあり、個々の思いを大事にした支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きくトイレを表示したり、常夜灯を付け、夜間安心して移動できるようにしている。居室もわかりやすいように、ネームプレートを見えやすい位置にしたり、ぬいぐるみを付けたりと工夫している。		